



よしだつうしん

# 吉田通信

第48号  
【2018年9月】

〒950-1475 新潟県新潟市南区戸頭1347-1 TEL:025-372-1138 FAX:025-372-1155

■■この吉田通信は私とご縁のあった方、ご縁をいただきたい方に差し上げている月一人通信です■■

## ◆これからの葬儀について…◆

こんにちは！お世話になります。吉運堂の吉田竹史です。吉田通信第48号をお送りいたします。よろしくお願いいたします。

さて、私は葬儀屋さんではありませんが、最近のご葬儀についていろいろと考えることがあります。“家族葬”という言葉が市民権を得て、今ではそれが当たり前になりました。家族だけでなく、その友人知人なども含めた少人数で行われるご葬儀もそう言われていますが、家族葬限らず、昔に比べ参列者もどんどん減っていき、ご葬儀がだいぶ簡素化されてきた印象です。

おそらくそれは、信仰心が薄れてきたからではなく、大往生が増えてきたからだとは私と考えています。20歳の方が亡くなられたり、働き盛りで子どももまだ小さい30代のお母さんが亡くなられたりだと、もう悲しくて、悲しくて参列者も多いと思いますが、90歳を超えてとなれば、故人の友人知人にしても、すでに先立たれているか、もしくは病院や施設にいるか、ご自宅にいても葬儀の場所まで足を運ぶのが難しいとかもあって、参列者の少ない小さな葬儀になっているのだと思います。

こういった中で、私がこれから増えてきてもおかしくないと思っているのが“生前葬”です。元気なうちに葬儀をやっておこうというもの。“終活”も家族葬と同様に、今では当たり前になりました。その終活の中に、生前葬があってもおかしくないわけで、某大企業の元社長が生前葬を行って、昨年末にニュースになりましたが、これが今後、普通になる可能性はあります。

そして、もうひとつ私が思っているのは、家族葬（少人数葬）を運営するお寺様が増えていくのではないかとことです。事実、最近とあるお寺様が、庫裏の一部をご葬儀ができるように改築されていました。そのお寺様はバスルームもお作りになり、まさに小さな斎場でした。しかし近隣のお檀家様を相手にするのであればバスルームや宿泊施設はいらないかもしれません。葬儀の形が今後さらに変化していく中で、私たちが何かお役立ちできないか、考えているところです。



## ◆発行者コラム◆

今回もまた最後までお読みいただき、どうもありがとうございます。さて、8月の頭に開催されました長岡花火に社員と新幹線で行ってきました。実は10年以上前から吉運堂として協賛花火を上げておりました、そんなこともあって行ってきたのですが、長岡駅の改札の混雑ぶりがすさまじく、ものすごい暑さの中で改札を出るまで10分以上かかりました…（汗）。あまりの混雑ぶりに、「やっぱり帰ろうかな…」と、心が折れそうになっていました…。吉田竹史

■■吉田通信を今後ご希望されない方は、大変お手数ですが090-3339-0424までご連絡をお願いいたします。■■

### 【発行者プロフィール】

名前：吉田 竹史（よしだ たけし）  
生年月日：昭和40年8月21日（O型）  
出身地：新潟県白根市（現・新潟市南区）  
経歴：都内の学校を卒業後、証券会社（水戸 & ニューヨーク）の4年間の勤務を経て吉運堂へ。

趣味：上手くないゴルフ、強くない将棋  
（NHKの将棋対局を見ることは好きです）  
家族構成：妻、娘、息子



吉田 竹史